

交付運用報告書

アジア・ハイ・イールド債券ファンド (毎月分配型) 成長通貨コース

追加型投信／海外／債券

作成対象期間：2019年8月14日～2020年2月10日

第94期 決算日：2019年9月10日 第95期 決算日：2019年10月10日

第96期 決算日：2019年11月11日 第97期 決算日：2019年12月10日

第98期 決算日：2020年1月10日 第99期 決算日：2020年2月10日



受益者のみなさまへ

平素は格別のご愛顧を賜り厚く御礼申し上げます。
 当ファンドは、日本を除くアジア（オセアニアを含む）のハイ・イールド債券（米ドル建て等）を実質的な主要投資対象とします。相対的に金利水準が高く、成長性が高いと考えられる6通貨の為替取引によるプレミアム（金利差相当分の収益）の獲得を目指し、インカムゲインの確保と信託財産の成長を目指します。当作成期もそれに沿った運用を行いました。ここに、運用状況をご報告申し上げます。

今後とも引続きお引立て賜りますようお願い申し上げます。

損保ジャパン日本興亜アセットマネジメント株式会社は、2020年4月1日に商号をSOMPOアセットマネジメント株式会社に変更します。

当ファンドは、投資信託約款において運用報告書（全体版）を電磁的方法によりご提供することを定めております。運用報告書（全体版）は下記の方法で閲覧いただけます。

なお、ご請求いただいた場合には交付いたしますので、販売会社までお問い合わせください。

▶ 運用報告書（全体版）の閲覧方法


<https://www.sjnk-am.co.jp/>

にアクセス

「ファンド検索」等から当ファンドのページを表示して、閲覧またはダウンロードすることができます。



損保ジャパン日本興亜アセットマネジメント

東京都中央区日本橋二丁目2番16号 共立日本橋ビル
 お問い合わせ先：クライアントサービス第二部

（受付時間 営業日の午前9時～午後5時）

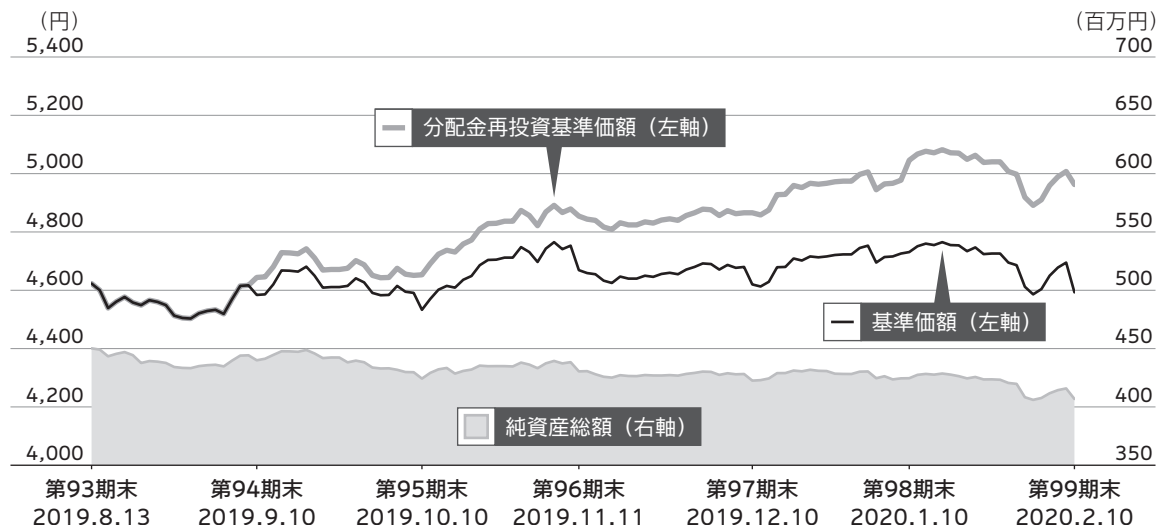

0120-69-5432

第99期末 2020.2.10	
基準価額	4,593円
純資産総額	406百万円
第94期～第99期 2019.8.14～2020.2.10	
騰落率*	7.3%
期中分配金合計	360円

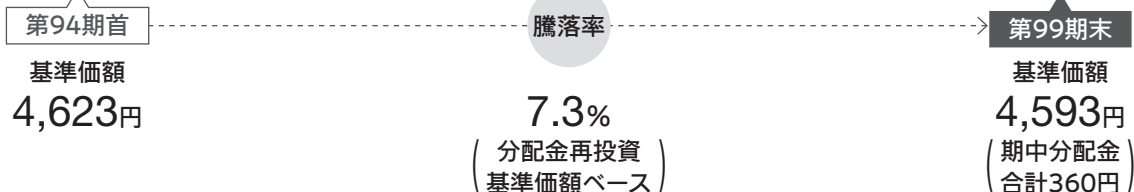
* 騰落率は、収益分配金（税引前）を分配時に再投資したものとみなして計算したものです。

運用経過

● 基準価額の推移



基準価額の推移





- 分配金再投資基準価額の推移は、2019年8月13日の基準価額をもとに委託会社にて指数化したものを使用しております。
- 分配金再投資基準価額は、収益分配金（税引前）を分配時に再投資したものとみなして計算したもので、ファンド運用の実質的なパフォーマンスを示すものです。
- 分配金を再投資するかどうかについてはお客さまがご利用のコースにより異なります。また、ファンドの購入金額により課税条件も異なります。従って、お客さまの損益の状況を示すものではありません。
- 当ファンドは、日興 アジア・ハイ・イールド・ボンド・ファンドへの投資比率を可能な限り高位に保ちますが、当該投資信託証券のコンセプトに適った指数等が存在しないため、ベンチマークおよび参考指数は記載しておりません。

● 基準価額の主な変動要因

アジア・ハイ・イールド債券ファンド（毎月分配型） 成長通貨コース

主要投資対象である「日興 アジア・ハイ・イールド・ボンド・ファンド（クラス3）」および「日興 アジア・ハイ・イールド・ボンド・ファンド（クラス4）」は、債券部分と為替部分それぞれプラス寄与し、分配金再投資基準価額の騰落率はプラスとなりました。

- 本報告書では、ベビーファンドとマザーファンド以外のファンドを下記の様に統一して表記しています。

 ベビーファンド  マザーファンド以外のファンド

● 1万口当たりの費用明細

項目	第94期～第99期 2019.8.14～2020.2.10		項目の概要
	金額	比率	
(a) 信託報酬	23円	0.500%	(a) 信託報酬 = 各期中の平均基準価額 × 信託報酬率 (年率) × $\frac{\text{各期の日数}}{\text{年間の日数}}$ 期中の平均基準価額は4,656円です。
(投信会社)	(9)	(0.190)	ファンドの運用の対価
(販売会社)	(14)	(0.294)	購入後の情報提供、運用報告書等各種書類の送付、口座内でのファンドの管理等の対価
(受託会社)	(1)	(0.016)	運用財産の管理、投信会社からの指図の実行等の対価
(b) その他費用	0	0.003	(b) その他費用 = $\frac{\text{各期中のその他費用}}{\text{各期中の平均受益権口数}}$
(監査費用)	(0)	(0.002)	監査法人に支払うファンドの監査にかかる費用
(その他)	(0)	(0.000)	信託事務の処理にかかるその他の費用等
合計	23	0.503	

注1. 期中の費用（消費税のかかるものは消費税を含む）は追加、解約によって受益権口数に変動があるため、項目の概要の簡便法により算出した結果です。

注2. 金額欄は各項目ごとに円未満は四捨五入してあります。

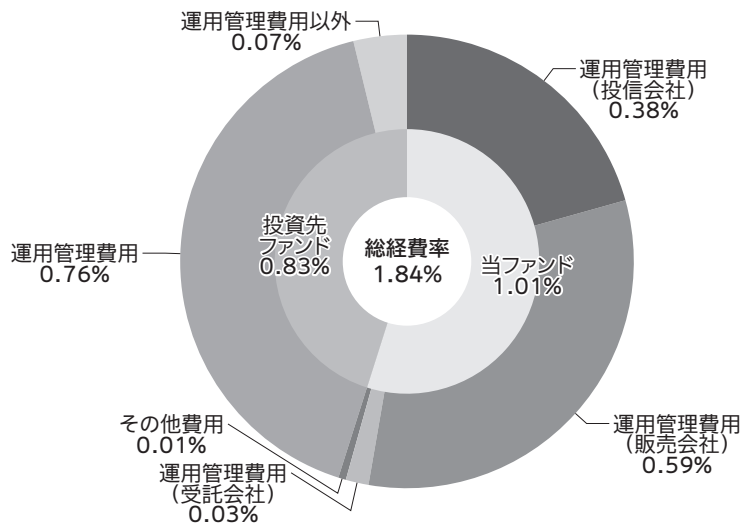
注3. 比率欄は「1万口当たりのそれぞれの費用金額」を期中の平均基準価額で除して100を乗じたものです。

注4. 各項目の費用は、このファンドが組入れている投資信託証券（マザーファンドを除く。）が支払った費用を含みません。

(参考情報)

○総経費率

期中の運用・管理にかかった費用の総額（原則として、募集手数料、売買委託手数料および有価証券取引税を除く。）を期中の平均受益権口数に期中の平均基準価額（1口当たり）を乗じた数で除した**総経費率（年率）は1.84%**です。



(単位: %)

総経費率(①+②+③)	1.84
①当ファンドの費用の比率	1.01
②投資先ファンドの運用管理費用の比率	0.76
③投資先ファンドの運用管理費用以外の比率	0.07

注1. 当ファンドの費用は1万円当たりの費用明細において用いた簡便法により算出したものです。

注2. 各費用は、原則として、募集手数料、売買委託手数料および有価証券取引税を含みません。

注3. 各比率は、年率換算した値です。

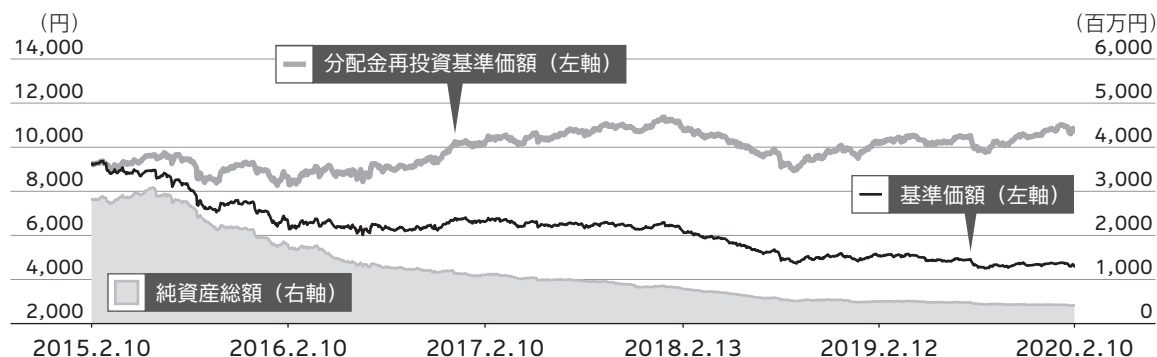
注4. 投資先ファンドとは、当ファンドが組入れている投資信託証券（マザーファンドを除く。）です。

注5. 当ファンドの費用は、マザーファンドが支払った費用を含み、投資先ファンドが支払った費用を含みません。

注6. 当ファンドの費用と投資先ファンドの費用は、計上された期間が異なる場合があります。

注7. 上記の前提条件で算出したものです。このため、これらの値はあくまでも参考であり、実際に発生した費用の比率とは異なります。

● 最近5年間の基準価額等の推移 2015.2.10~2020.2.10



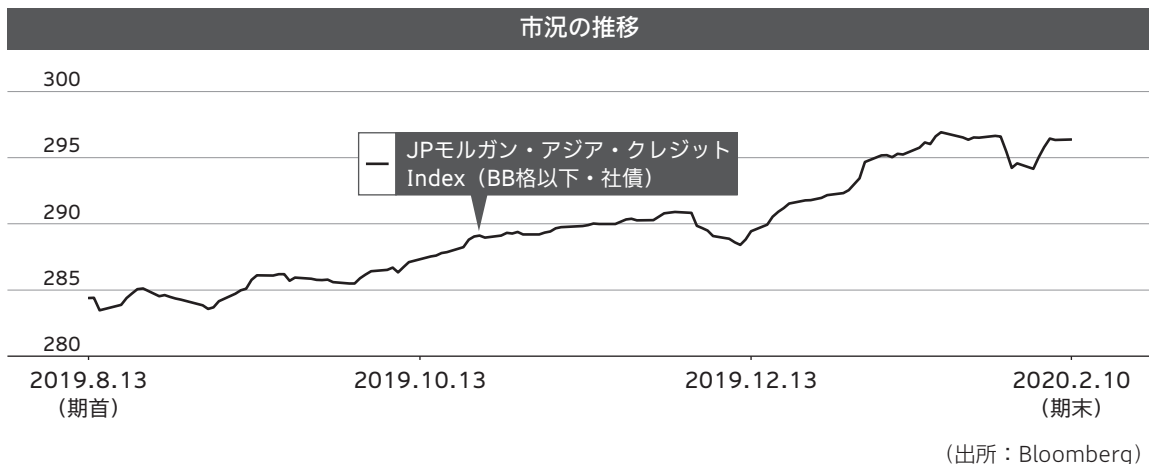
- 分配金再投資基準価額の推移は、2015年2月10日の基準価額をもとに委託会社にて指数化したものを使用しております。
- 分配金再投資基準価額は、収益分配金（税引前）を分配時に再投資したものとみなして計算したもので、ファンド運用の実質的なパフォーマンスを示すものです。
- 分配金を再投資するかどうかについてはお客さまがご利用のコースにより異なります。また、ファンドの購入金額により課税条件も異なります。従って、お客さまの損益の状況を示すものではありません。
- 当ファンドは、日興 アジア・ハイ・イールド・ボンド・ファンドへの投資比率を可能な限り高位に保ちますが、当該投資信託証券のコンセプトに適った指数等が存在しないため、ベンチマークおよび参考指数は記載しておりません。

決算日	2015.2.10 決算日	2016.2.10 決算日	2017.2.10 決算日	2018.2.13 決算日	2019.2.12 決算日	2020.2.10 決算日
基準価額 (円)	9,232	6,560	6,617	6,174	5,057	4,593
期中分配金合計 (税引前) (円)	—	2,220	1,030	820	720	720
分配金再投資 基準価額騰落率 (%)	—	△ 6.2	18.3	5.9	△ 6.1	5.6
純資産総額 (百万円)	2,817	1,765	1,100	787	495	406

● 投資環境

当期のアジア・ハイ・イールド債券市場は上昇しました。

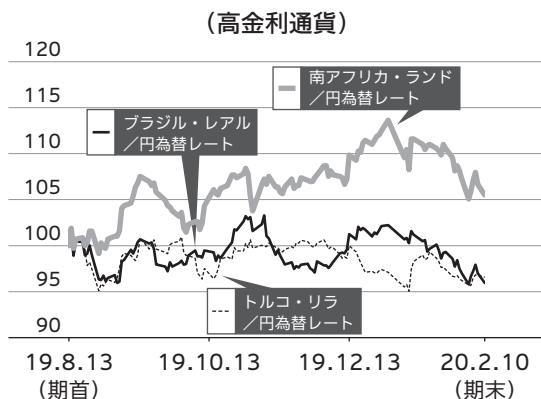
期初から2020年1月中旬にかけては、米国と中国が通商協議において第一段階となる合意に達したことなどを好感し、米国金利は上昇したものの、クレジットスプレッドが大きく縮小したことからアジア・ハイ・イールド債券市場は上昇しました。1月中旬以降は、中国で新型コロナウイルスの感染拡大への懸念が高まったことを主因にリスク回避的な市場環境となったことから米国金利は大幅に低下したものの、クレジットスプレッドが拡大に転じたことからアジア・ハイ・イールド債券市場は上値の重い展開となりました。



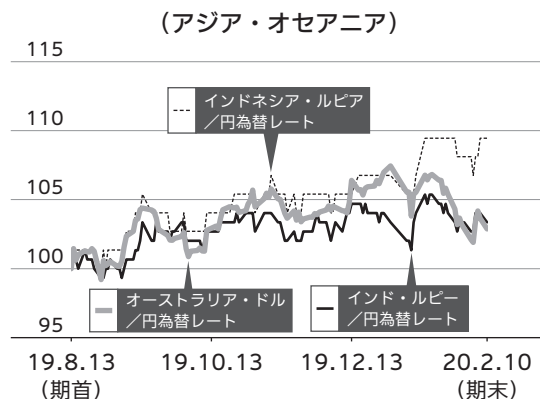
当期の為替市場は、FRB（米連邦準備理事会）が当面は政策金利を据え置く方針を示したことに加え、米中間の通商協議が第一段階の合意に達したことが好感され、円安ドル高となりました。

アジア通貨については、2019年10月末にインドネシアで第2期ジョコ政権が誕生し、安定した政治環境を好感しインドネシアルピアが対円で大きく上昇しました。インドルピー、オーストラリアドルともに対円で上昇しました。また、高金利通貨については、南アフリカランドは主要貿易相手国である中国の対米通商問題が一部進展したことを好感し、対円で上昇しました。一方、トルコリラ、ブラジルレアルは対円で下落しました。

為替レートの推移



出所：(ブラジルレアル・トルコリラ) 投資信託協会
(南アフリカランド) Bloomberg



(出所：Bloomberg)

注1. 為替レートは対顧客電信売買相場の仲値を使用しております。

注2. 為替レートは期首を100として指数化しております。

● 当該投資信託のポートフォリオ

期を通じて、「日興 アジア・ハイ・イールド・ボンド・ファンド（クラス3）」および「日興 アジア・ハイ・イールド・ボンド・ファンド（クラス4）」への投資比率を概ね均等に維持しました。

日興 アジア・ハイ・イールド・ボンド・ファンド（クラス3）

アジア・ハイ・イールド債券利回りが低下（価格は上昇）したことに加えて、クーポン収入等が貢献し、債券部分はプラスに寄与しました。

南アフリカランドは対円で上昇した一方、トルコリラ、ブラジルレアルが対円で下落したことから、為替部分はマイナスに寄与しました。

日興 アジア・ハイ・イールド・ボンド・ファンド（クラス4）

アジア・ハイ・イールド債券利回りが低下（価格は上昇）したことに加えて、クーポン収入等が貢献し、債券部分はプラスに寄与しました。

インドネシアルピア、インドルピー、オーストラリアドルが対円で上昇したことから、為替部分はプラスに寄与しました。

● 当該投資信託のベンチマークとの差異

当ファンドは、日興 アジア・ハイ・イールド・ボンド・ファンドへの投資比率を可能な限り高位に保ちますが、当該投資信託証券のコンセプトに適った指数等が存在しないため、ベンチマークおよび参考指数は記載しておりません。

● 分配金

収益分配金については、基準価額の水準等を勘案し、1万口当たり合計360円の分配を行いました。なお、収益分配に充てなかった収益は、信託財産に留保し、運用の基本方針に基づいて引き続き元本と同一の運用を行います。

分配原資の内訳

(単位：円、1万口当たり・税引前)

項目	第94期	第95期	第96期	第97期	第98期	第99期
	2019.8.14 } 2019.9.10	2019.9.11 } 2019.10.10	2019.10.11 } 2019.11.11	2019.11.12 } 2019.12.10	2019.12.11 } 2020.1.10	2020.1.11 } 2020.2.10
当期分配金	60	60	60	60	60	60
(対基準価額比率)	1.292%	1.306%	1.269%	1.282%	1.252%	1.289%
当期の収益	60	60	60	60	60	60
当期の収益以外	—	—	—	—	—	—
翌期繰越分配対象額	7,649	7,671	7,681	7,682	7,687	7,688

注1. 「当期の収益」は「経費控除後の配当等収益」および「経費控除後の有価証券売買等損益」から分配に充当した金額です。また、「当期の収益以外」は「収益調整金」および「分配準備積立金」から分配に充当した金額です。

注2. 円未満は切り捨てており、当期の収益と当期の収益以外の合計が当期分配金（税引前）に合致しない場合があります。

注3. 当期分配金の対基準価額比率は当期分配金（税引前）の期末基準価額（分配金込み）に対する比率で、ファンドの収益率とは異なります。

注4. 投資信託特有の会計処理により、「翌期繰越分配対象額」が基準価額を上回っている場合がありますが、実際に基準価額を超えて分配金が支払われることはありません。

決算期毎にインカム収入[※]を中心に分配を行うことを目指すファンドです。

※ インカム収入とは、債券の利子収入、為替取引によるプレミアム（金利差相当分の収益）収入等をいいます。

- ・ ファンドに蓄積された過去の運用成果（分配原資）を加味する場合があります。
- ・ 投資対象資産や為替の値動き等により基準価額が下落した場合でも、原則として、インカム収入相当については、分配を行います。

● 今後の運用方針

アジア・ハイ・イールド債券ファンド（毎月分配型） 成長通貨コース

今後も、「日興 アジア・ハイ・イールド・ボンド・ファンド（クラス3）」および「日興 アジア・ハイ・イールド・ボンド・ファンド（クラス4）」への投資比率を概ね均等に保つことにより、信託財産の中長期的な成長を目指します。




日興 アジア・ハイ・イールド・ボンド・ファンド

中国で発生した新型コロナウイルスの感染拡大がマクロ経済環境に与える影響については現時点ではまだ不透明であるものの、事態の深刻度合いや終息にどの程度時間を要するか、そして消費者行動や経済活動への下押し圧力がどの程度になるか次第であるとみています。中長期的には、引き続き米中間の通商協議の進展を注視する必要があるとみているものの、アジア各国の経済基盤は引き続き総じて堅調であり、企業の財務基盤も健全な状況にあることから、アジア・ハイ・イールド債券市場は底堅い推移を予想しています。

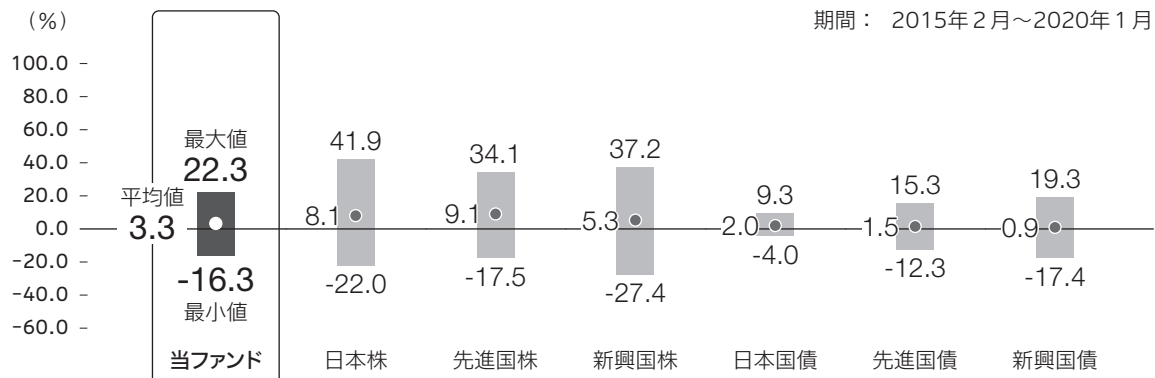
● お知らせ

投資信託の監査にかかる費用を適切に反映させるため、2020年1月から、監査費用の徴収方法を変更することと致しました。

● 当該投資信託の概要

商品分類	追加型投信／海外／債券
信託期間	2011年11月14日から2021年8月10日まで
運用方針	インカムゲインの確保と信託財産の成長を図ることを目指します。
主要投資対象	 アジア・ハイ・イールド債券ファンド（毎月分配型） 成長通貨コース 投資信託証券  日興 アジア・ハイ・イールド・ボンド・ファンド（クラス3） アジア地域の米ドル建てのハイ・イールド債券等  日興 アジア・ハイ・イールド・ボンド・ファンド（クラス4） アジア地域の米ドル建てのハイ・イールド債券等
運用方法	① 主として日本を除くアジア（オセアニアを含む）のハイ・イールド債券（米ドル建て等）を実質的な主要投資対象とし、インカムゲインの確保と信託財産の成長を目指します。 ② 当ファンドは、原則、相対的に金利水準が高く、成長性が高いと考えられる6通貨の為替取引を行い、為替取引によるプレミアム（金利差相当分の収益）の獲得を目指します。
分配方針	毎決算時に、原則として以下の方針に基づき分配を行います。 ① 分配対象額の範囲は、経費控除後の繰越分を含めた利子、配当収入と売買益（評価損益を含みます。）等の全額とします。 ② 収益分配金額は、委託会社が基準価額水準、市場動向等を勘案して決定します。ただし、分配対象収益が少額の場合には分配を行わないことがあります。

● 代表的な資産クラスとの騰落率の比較



* 上記期間の各月末における直近1年間の騰落率の平均・最大・最小を、当ファンドおよび他の代表的な資産クラスについて表示したものです。

* 各資産クラスの指数

日本株	東証株価指数 (TOPIX) (配当込み)
先進国株	MSCIコクサイ・インデックス (配当込み、円ベース)
新興国株	MSCIエマージング・マーケット・インデックス (配当込み、円換算ベース)
日本国債	NOMURA-BPI国債
先進国債	FTSE世界国債インデックス (除く日本、ヘッジなし・円ベース)
新興国債	JPモルガンGBI-EMグローバル・ディバースィファイド (円ベース)

※ 海外の指数は、為替ヘッジなしによる投資を想定して、円換算しています。

- 当ファンドについては、分配金 (税引前) 再投資基準価額の騰落率です。
- 全ての資産クラスが当ファンドの投資対象とは限りません。
- 上記の騰落率は直近月末から60ヶ月遡った算出結果であり、決算日に対応した数値とは異なります。

指数に関する詳細は16～17ページをご参照ください。

当該投資信託のデータ

● 当該投資信託の組入資産の内容

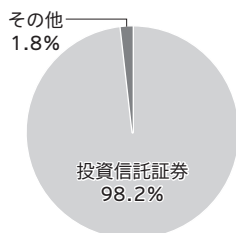
※ 組入銘柄に関する詳細な情報等については、運用報告書（全体版）に記載されています。

組入ファンド

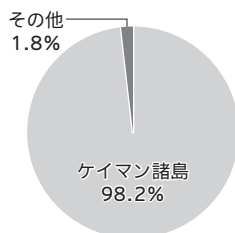
	第99期末 2020.2.10
NikkoAM Asia Investment Series- NikkoAM AsiaHighYieldBondFund IV	50.4%
NikkoAM Asia Investment Series- NikkoAM AsiaHighYieldBondFund III	47.8%

注. 比率は第99期末における純資産総額に対する評価額の割合です。

資産別配分



国別配分



通貨別配分



注. 比率は第99期末における純資産総額に対する評価額の割合です。

● 純資産等

項目	第94期末 2019.9.10	第95期末 2019.10.10	第96期末 2019.11.11	第97期末 2019.12.10	第98期末 2020.1.10	第99期末 2020.2.10
純資産総額	439,970,431円	424,277,321円	430,467,619円	422,531,386円	424,601,205円	406,825,417円
受益権総口数	959,769,065口	936,030,768口	922,007,438口	914,523,577口	897,465,723口	885,776,581口
1万口当たり 基準価額	4,584円	4,533円	4,669円	4,620円	4,731円	4,593円

※ 当作成期間（第94期～第99期）中における追加設定元本額は21,416,921円、同解約元本額は109,535,596円です。

● 組入上位ファンドの概要

※ 組入ファンドの計算期間の詳細な運用経過等に関する詳細な情報については、運用報告書（全体版）に記載されています。

日興 アジア・ハイ・イールド・ボンド・ファンド

基準価額の推移

(クラス3)



(クラス4)



- 基準価額は、アジア・ハイ・イールド債券ファンド（毎月分配型）成長通貨コースの基準価額算出に用いた価額（算出日の前日（海外）の価額）を表示しています。
- 分配金再投資基準価額は、2017年12月29日の基準価額に合わせて指数化しています。

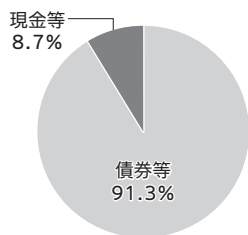
1万口当たりの費用明細

当該期間（2018年1月1日～2018年12月31日）の1万口当たりの費用明細については開示されていないため、掲載していません。

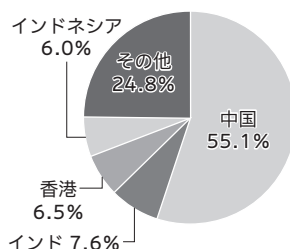
組入上位10銘柄

	銘柄名	国・地域	クーポン	償還日	比率
1	KWG GRP HLDGS 8.975% 14/01/19 REGS USD	中国	8.975%	2019/01/14	3.8%
2	CHINA SCE GRP PROPERTY HLDGS 10% 02/07/20 USD	中国	10.000%	2020/07/02	3.2%
3	EXPORT-IMPORT BANK KOREA FRN 01/11/2022 USD	韓国	3.466%	2022/11/01	3.0%
4	POWERLONG REAL ESTAT 5.95% 19/07/20 USD	中国	5.950%	2020/07/19	2.7%
5	SUNAC CHINA HLDGS 8.625% 27/07/20 USD	中国	8.625%	2020/07/27	2.5%
6	YANGO JUSTICE INTL 9.5% 23/09/19 USD	中国	9.500%	2019/09/23	2.5%
7	XINHU ZHONGBAO 6% 01/03/20 USD	中国	6.000%	2020/03/01	2.3%
8	CENTRAL CHINA REAL ESTATE 8% 28/01/20 REGS USD	中国	8.000%	2020/01/28	2.2%
9	VEDANTA RESOURCES 8.25% 07/06/21 REGS USD	インド	8.250%	2021/06/07	2.1%
10	CHINA SCE GRP PROPERTY HLDGS 7.45% 17/04/21 USD	中国	7.450%	2021/04/17	2.1%
組入銘柄数			66銘柄		

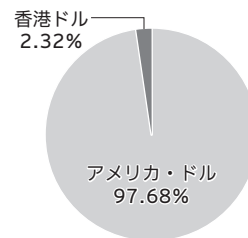
資産別配分



国別配分



通貨別配分



注1. 組入上位10銘柄、資産別・国別・通貨別配分のデータは組入ファンドの決算日（2018年12月31日）現在のものです。

注2. 国別配分の比率は、組入債券の評価額に対する割合、左記以外の比率は純資産総額に対する評価額の割合です。

注3. 日興アセットマネジメント アジア リミテッドが作成したデータを掲載しています。

● 指数に関して

「代表的な資産クラスとの騰落率の比較」に用いた指数について

■ 東証株価指数（TOPIX）（配当込み）

東京証券取引所第一部上場全銘柄の基準時（1968年1月4日終値）の時価総額を100として、その後の時価総額を指数化したものです。東証株価指数（TOPIX）は、東京証券取引所の知的財産であり、東京証券取引所は、TOPIXの算出もしくは公表の方法の変更、TOPIXの算出もしくは公表の停止またはTOPIXの商標の変更もしくは使用の停止を行う権利を有しています。

■ MSCIコクサイ・インデックス（配当込み、円ベース）

MSCI Inc.が開発した、日本を除く世界主要国の株価指数を、各国の株式時価総額をベースに合成した株価指数です。同指数に関する著作権、知的財産権その他一切の権利はMSCI Inc.に帰属します。また、MSCI Inc.は、同指数の内容を変える権利および公表を停止する権利を有しています。

■ MSCIエマージング・マーケット・インデックス（配当込み、円換算ベース）

MSCI Inc.が開発した株価指数で、世界の新興国で構成されています。MSCIエマージング・マーケット・インデックス（配当込み、円換算ベース）は、MSCIエマージング・マーケット・インデックス（配当込み、米ドルベース）をもとに委託会社が独自に計算したものです。同指数に関する著作権、知的財産権その他一切の権利はMSCI Inc.に帰属します。また、MSCI Inc.は、同指数の内容を変える権利および公表を停止する権利を有しています。

■ NOMURA-BPI国債

野村證券株式会社が公表する国内で発行された公募利付国債の市場全体の動向を表す投資収益指数です。NOMURA-BPIに関する一切の知的財産権その他一切の権利は、すべて野村證券株式会社に帰属します。野村證券株式会社は、ファンドの運用成果等に関して一切責任を負いません。

■ FTSE世界国債インデックス（除く日本、ヘッジなし・円ベース）

FTSE Fixed Income LLCにより運営され、世界主要国の国債の総合収益率を各市場の時価総額で加重平均した債券インデックスです。同指数はFTSE Fixed Income LLCの知的財産であり、指数に関するすべての権利はFTSE Fixed Income LLCが有しています。

■ JPモルガンGBI-EMグローバル・ディバーシファイド（円ベース）

J.P. Morgan Securities LLCが算出し公表している指数で、新興国が発行する現地通貨建て国債を対象にした指数です。同指数の著作権はJ.P. Morgan Securities LLCに帰属します。

ホームページにて当ファンドの詳細をご案内しております。

アジア・ハイ・イールド債券ファンド（毎月分配型） 成長通貨コース

検索

<https://www.sjnk-am.co.jp/fund/0927/price.html>

The screenshot shows the SOMPO website interface. At the top, there is a navigation bar with 'HOME', 'Fund Information', 'Market & Fund Report', 'Our Business', and 'About Us'. The main content area is titled 'アジア・ハイ・イールド債券ファンド（毎月分配型）成長通貨コース'. Below the title, there is a table of documents with columns for document type, date, and status. A red box highlights the '最新週次レポート' (Latest Weekly Report) entry, which is dated 2020.02.14 and marked as '休' (Closed). Other entries include '交付目論見書' (2019.11.13), '請求目論見書' (2019.11.13), '販売用資料' (2019.11.13), '交付運用報告書' (2019.08.13), '運用報告書 (全体版)' (2019.08.13), and '最新月次レポート' (2020.01.31).

各書類の最新版をご確認いただけます。

交

交付目論見書

当ファンド購入に際して投資判断に必要な重要事項をご説明しております。

運交

交付運用報告書

当ファンドの運用状況について重要な事項をご説明しております。

週

最新週次レポート

当ファンドの運用状況を週次でご説明しております。

請

請求目論見書

交付目論見書より詳細な当ファンドの情報をご説明しております。

運全

運用報告書（全体版）

交付運用報告書より詳細な運用状況をご説明しております。

休

海外休業日（申込不可日）

購入・換金の申込不可日をご案内しております。

販

販売用資料

目論見書を補完する内容をご説明しております。交付目論見書と併せてご覧ください。

月

最新月次レポート

当ファンドの運用状況を月次でご説明しております。

い

分配金のお知らせ

決算期の分配金の推移についてお知らせいたします。

本報告書作成時点のものを掲載しております。